

# 平和行政

## 平和に勝る福祉なし

読谷村民は持てる英知と情熱を尽くして、平和の郷読谷の建設に取り組んでいます。それは、「軍隊は国民の生命財産を守り得るものではなく、国民一人ひとりにあらゆる意味での犠牲を強いられる強権として存在するものである」という、沖縄戦で多大な犠牲の上に学びとった教訓を村政の中に生かし、2度と戦争の惨禍が起こらない社会の構築が目的です。

地方自治行政は、その地域住民の生命財産を守り、生命が脅かされない生活環境の確保が第一義的です。すなわち、「平和に勝る福祉なし」ということでもあります。戦争を起こすのも人間ですが、同時に戦争を拒否し、平和な社会を築き得るのもまた人間なのです。



読谷海岸のリーフ内に進軍する海兵隊員。主力部隊はすでに南下しており、無血上陸となつた。(4月1日)



米軍上陸の地碑



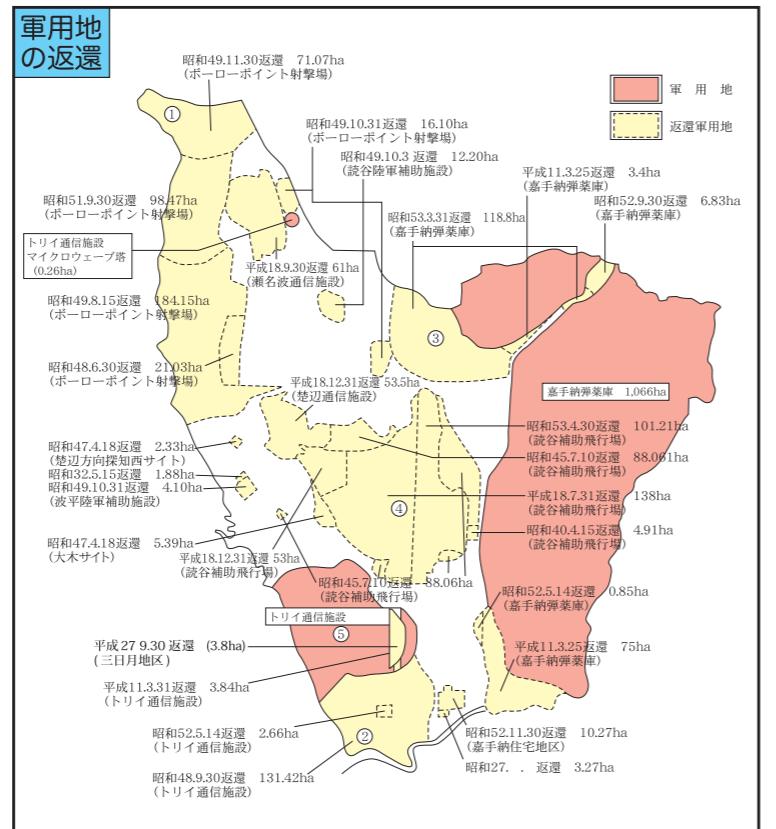
米軍上陸作戦でイエロービーチと呼ばれた旧渡具知港。前線への補給物資も次々上陸船艇から陸揚げされた。今はこの旧渡具知港はない。

## チビチリガマから世界へ平和の祈りを

チビチリガマは、1945年4月2日、アメリカ兵の残酷な仕打ちを恐れて「集団自決」が行われた場所です。犠牲者の死を悼み、悲惨な戦争が二度と起こらぬよう、永遠の平和を心の底から祈り、この地に「世代を結ぶ平和の像」を建立しました。



### 軍用地 の返還



軍用地が返還された読谷補助飛行場跡地は土地改良事業や公共施設が建設されました。また、大湾東地区や大木地区では、土地区画整理事業が行われ、新たなまらづくりが進みつつあります。



## YOMITAN CHUBU

読谷中部

## OWAN 大湾



## 大木 OOKI

